

腎移植患者のQOLについて -20例のアンケート調査を通して-

阿部睦子、小川敦子、伊藤由紀子、熊谷ナミ子
佐藤 滋*、下田直威*、加藤哲郎*
秋田大学医学部附属病院 2階西病棟、同泌尿器科*

Quality of life of Kidney Transplant Recipients -A Questionnaire Survey of 20 Cases -

Mutsuko Abe, Atsuko Ogawa, Yukiko Itoh, Namiko Kumagai

Shigeru Satoh*, Naotake Shimoda*, Tetsuro Katoh*

Ward of Urology, Akita University Hospital

腎移植は、患者のQOLを向上させる治療である。当院では98年より現在まで23名の腎移植が行われ、20名が退院し社会生活を送っている。今回、退院後の日常生活についてアンケート調査を行い、移植前と比較し、どのようにQOLが改善したのか検討した。

< I. 対象 >

1998年2月から2000年10月までに当院で腎移植を受けた20名（表1）

回収率95%

	男	女
10歳未満	1	0
20代	4	2
30代	3	2
40代	3	2
50代	1	2
計	12	8

表1 対象

< II. 結果 >

血液透析をうけていた12名の患者の、通院時間ならびに診療時間を合計した病院拘束時間の1ヵ月平均は、移植前52.7時間から、移植後5.1時間と約1/10に短縮している。（図1）

就職状況については移植後、血液透析をうけていた患者2名が仕事につくことができています。（図2）

就労時間は、1日平均で移植前5.7時間から移植後7時間へと増加している。（図3）

現在の体調は、19名中17名が移植前に比べて良くなったと答えている。（図4）

趣味に費やす時間が増えたと回答したのは19名中11名で、温泉や長時間の旅行、釣り、子供との野球などをあげている。（図5）

移植後の食生活の変化については、「健康時と同じ食生活に戻れた」8名、「水分制限がなくなった」3名、「食べ物の味が変わって美味しくなった」3名、「塩分、間食に気をつけている」「アルコール類をやめた」「食べ物に対して固執しなくなった」「楽しく食事ができる」と、各1名ずつ答えている。

服薬に対して、5名が免疫抑制剤の定時の内服や、副作用に対する心配をストレスと感じており、14名がストレスがないと答えている。

家庭内外での対人関係についての質問では、移植後、家庭内での人間関係が良かった理由として、「家族との外出が増え明るくなった」「会話が多くなった」「移植前には家族も飲水量を控えるなど気を使っていたが、それがなくなった」と答えている。

家庭外においては良かった理由として、「時間の規制がなくなり、友人とでかけられる」「職場のつきあいに行ける」「一緒に食事ができる」と答えている。変わらないが11名、「移植前後に関係なく普通に接してくれている。」と3名が答えている。(表2)

移植後自分自身や周囲で大きく変わったこととして、「精神的安定」「前向きになった」「明るくなった」などで、50代の女性が「夢を持つことができた」と答えている。(表3)

ドナーに対しては、19名全員が感謝し、移植して良かったと答えている。「腎移植を他の患者さんにすすめるか」では、「すすめる」が18名、9歳児1名が「どちらともいえない」と答えている。

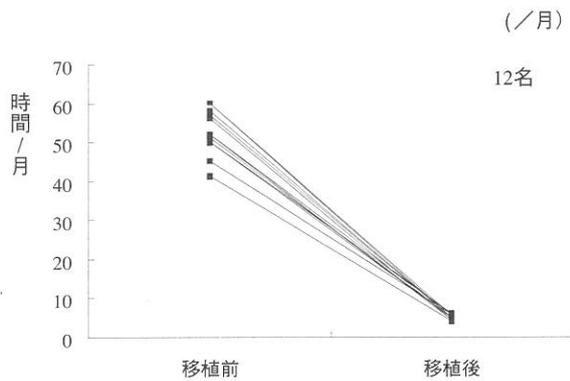


図1 HD患者の病院拘束時間

	血液透析患者		CAPD患者	
移植前	10 あり	2 なし	5 あり	2 なし
移植後	12		5	

図2 腎移植前後における就職状況

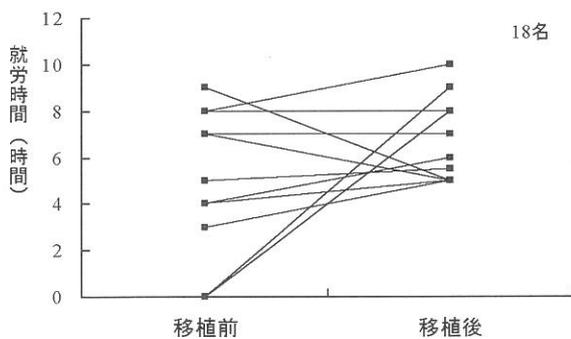


図3 移植前後の1日就労時間

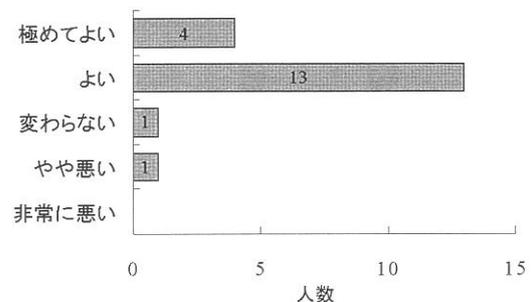


図4 現在の体調

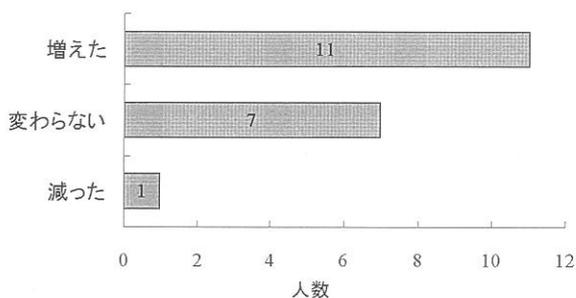


図5 趣味に費やす時間

家庭内

- ・良くなった 9名
- ・変わらない 10名

家庭外

- ・良くなった 8名
- ・変わらない 11名

表2 腎移植前後における人間関係

- ・ 精神的安定 (30代 男, 40代 女)
- ・ 前向きになった (20代 男)
- ・ 皆, 明るくなった (20代 男, 40代 女)
- ・ 平凡に生活できることの幸せに気がついた (20代 女)
- ・ 夢を持つことができた (50代 女)
- ・ 健康の大切さを自覚した (30代 男)
- ・ 移植や臓器提供についての考え方が変わった (40代 男)

表3 腎移植後、自分自身や周囲で大きく変わったこと

< III. 考 察 >

移植後の病院拘束時間は、血液透析だった患者では約10分の1で、移植により大きな時間的余裕ができています。

仕事では、腎移植後就業者数および作業時間が増えている。これは体調が良くなったことで、周囲の健康な人と近い状態で働くことができているといえる。

移植後は、制限の少ない食事と時間のゆとりにより、身体的・精神的に余裕ができ、趣味や家族・友人との交流が増え、家庭内外での人間関係も良くなっている。また、家庭内の人間関係が良くなったという結果から、移植患者だけでなく、その家族においても、身体的・精神的余裕ができていていると思われる。

< IV. まとめ >

アンケート結果から、腎移植患者のQOLの向上が認められた。しかし、食事や服薬の自己管理に対する支援の必要性を認識した。

今後は腎移植年数の経過とともに、慢性拒絶反応や合併症を生じてくることにより、QOLが低下する可能性がある。これからは、移植患者の持っている不安、悩みについて明らかにし、援助していくことが重要といえる。

参 考 文 献

- 1) 太田和夫、高橋公太、本田 宏、岡隆 弘、安村忠樹、高橋 隆、遠藤 晃：わが国における腎移植施設の現状と患者および施設に対する実態調査 第2報～第4報、腎と透析、1993～1994.
- 2) 林 裕子、山田多香子、高木英子：腎移植患者の退院後のセルフケアの経時的変化—退院時、退院1ヵ月後の面接記録の評価—、第29回成人看護Ⅱ、1998.
- 3) 林 優子、小島操子：腎移植を受けたレシピエントのQOLを高めるための看護援助モデルの作成、日本看護学会誌、1996.